

平和について考えてみましょう！（1）

今日から8月に入りました。日本では夏休み真っ最中です。私の8月のイメージは、平和に関して考える月です。原爆投下のあった8月6日（広島）8月9日（長崎）や日本の終戦記念日の8月15日など、恒久平和を願い、平和について考える機会です。日本では、平和に関する番組もたくさん見ることができます。私の出身県の長崎では、原爆投下のあった8月9日は毎年、県下一斉に全校登校日です。年によっては、その日が土曜日や日曜日になっても原則行われました。そして、その日には、生徒による「平和集会」が行われます。子どもたちが調べた戦争の実情や平和への取り組みが発表されます。また、戦争当時のことを知る語り部の人たちによる戦争体験を聞いたりします。もちろん、私にとっても、「平和集会」は平和について考える貴重な機会でした。戦争の悲惨さや先人たちの苦労を思い出し、平和に対する思いを強くします。

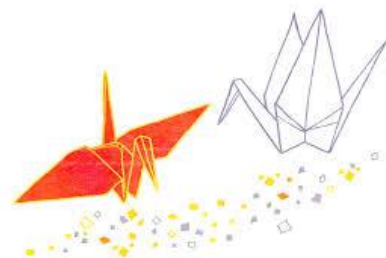


広島平和記念公園にある「原爆の子の像」を知っていますか。修学旅行で広島に行った時、平和教育の一環として広島平和記念公園を訪れます。その中で、原爆ドームはもちろんですが、この「原爆の子の像」の前で、千羽鶴を捧げ、平和集会を開きました。ここは、全国の学校や団体からたくさんの千羽鶴が捧げられています。「原爆の子の像」は、佐々木禎子さんの死をきっかけに作られました。英語の教科書（三省堂）にも掲載されました。

佐々木禎子さんは、1943年1月7日に生まれました。名前は、両親が元気に育つようにと願いを込め、姓名判断の先生に頼み、つけてもらいました。運動神経抜群で将来の夢は「中学校の体育の先生になること」でした。1945年8月6日、2歳の時に広島市に投下された原子爆弾によって、爆心地から1.7kmの自宅で黒い雨により被爆しました。同時に被爆した母親は身体の不調を訴えましたが、禎子さんは不調を訴えることもなく元気に成長しました。1954年8月の検査では異常はありませんでした。また、小学6年生の秋の運動会ではチームを1位に導きました。その日は1954年10月25日で、偶然にも自身の命日となるちょうど1年前でした。11月頃より首の周りにしこりができ、病院にかかりましたが、原因が分からず、2月に大きな病院での検査の結果、白血病であることが判明し、広島赤十字病院に入院しました。1955年8月に名古屋の高校生からお見舞いとして折り鶴が送られ、折り始めました。禎子さんだけでなく、多くの入院患者が折り始めました。病院では、折り紙で千羽鶴を折れば元気になると信じて鶴を折り続けました。8月下旬に折った鶴は1000羽を越えましたが、同じ部屋に入院していた人は、「もう1000羽折るわ」という声を聞きました。その後、折り鶴は小さい物になり、針を使って折るようになりました。当時、折り紙は高価で、折り鶴は薬の包み紙のソロファンなどで折られました。1000羽以上折ったものの病気が回復することなく、同年10月25日に亜急性リンパ性白血病で亡くなりました。最後は、お茶漬けを二口食べ、「あーおいしかった」と言い残し亡くなりました。

禎子さんの死をきっかけに、原爆で亡くなった子どもたちの霊を慰め平和を築くための像を作ろうという運動が始まり、全国からの募金で「原爆の子の像」が完成しました。その後、この話が世界に広がり、日本国内を始め世界各国から折り鶴が捧げられ、その数は年間約1千万羽、重さにして約10トンにもなります。折り鶴は日本の伝統的な文化である折り紙の一つですが、今日では平和のシンボルと考えられ、多くの国々で平和を願って折られています。

子どもたちにとって、この世界が平和で誰もが暮らしやすいものにしていくために、我々、大人は最大限の努力をしていかなければいけないと思います。



子どもたちの体調管理のお願い

有意義な夏休みを過ごし、子どもたちは、元気に学校に戻ってきてくれました。しかし、今年は、例年になく、暑い日がかこハワイでも続いています。夏休みの疲れや生活リズムの変化により、体調を崩すお子様も見受けられます。夏バテを起こしやすいこの時期、ご家庭でも子どもたちの体調管理をお願いします。また、学校では、こまめな水分補給を心がけてさせています。少し多めの水分のご準備をよろしくをお願いします。